

◎教育水準の向上に向けた取組についての報告と取組事業としての評価

【東京都補助事業】

- ①幼児教育の内容・方法の改善
- ②幼児教育を担う人材の育成・専門性の向上
- ③家庭・地域における幼児教育の支援
- ④新型コロナウイルス感染症に対応した取組

実施回数・期間	事業の分類	実施内容	園児にとっての成果・効果等	取組事業の評価
春から夏	①	園敷地内の畑を活用して、園児が皆で協力しながら、夏野菜とじゃがいもの植え付けから栽培・収穫まで行い、その野菜を食した。 季節の花の種子及び球根の観察と感触を味わい、植え付け、成長過程を観察し記録する ○年少 ひまわり ○年中 あさがお ○年長 ミニトマト	この一連の活動を通して、農作物の成長過程の観察と食の大切さ、食品ロスを認識し食育の推進を図ることができた。 様々な花や樹木について興味関心を高めることができた。何よりも、自分が植え付けした種から芽が出て、積極的な水やりが行われ、花が咲いた日の喜びは最高の日になっっている。 また、他学年のプランターへの興味関心もいただき、比較したり、絵に表す園児もいた。	A
年間を通して	①	園内で、ウサギ、かめ、金魚、ウーパールーパー（年度途中で他界）を飼育し、園児たちにも餌やり、一部掃除等をさせるなど、日常的に動物に接する。 春から夏に、クラス室内でカブトムシや蝶の幼虫を飼育し、成虫になるまでの観察をする。	身近な動物への接し方を考え、その動物の特徴を知り、命を大切にすることを体感することができ、動物の死についても体感した。 幼虫から成虫になるまでの進化の過程と屋外へ羽ばたかせる姿を見送ることで、生き物の成長の喜びを体得できた。クラスでは羽ばたく蝶を応援する姿は園児ならではの感動であった。	A
年間を通して	①	芝生の温もりは、園児の健全な発育・情緒安定に役立っており、年間維持するために作業を計画的に行う。また、地域の環境の向上と緑化推進により地域住民への環境の向上としても有効的である。 春と秋のオバート、定期的な肥料散布とスパイキング作業、芝刈り随時行うことで維持管理する。	自由あそびでは園児たちが好んで芝生の上で鬼ごっこや縄跳び、ボール蹴りを楽しみ、新芽の頃には寝転んでごっこあそびをする場となっている。これにより、怪我の減少と重大事故が無く効果が短期間でできた。 また、芝生が園児たちの遊びの場を確保し、安全な遊び場を提供している。	A
5月小動物 9月水の中の 生き物	①	5月にふれあい動物園と称して、小動物との触れ合う日を設定して移動動物園に来園していただいた。	動物とのふれあいあそびで弱者への配慮と命の尊厳を心臓の音で実感し、日常生きている動物への優しさ、いたができた。また、水の中の生き物とのふれあいに興味関心が高まった。同時に、陸の生き物とのふれあいの機会も多かった。	A

評価 A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果が無かった